

化学
海洋学

海外研究機関研究員

大学教員

研究はおもしろい!

川合美千代 (東京海洋大学 先端科学技術研究センター 准教授)

仕事の内容とやりがい

大学で教育・研究を行っています。専門は化学海洋学。海水に溶けている様々な物質の濃度から、海水の起源、流れの速さ、大気とのガス交換、生物活動など、海洋における諸過程を理解するという研究分野です。これらを調べることで、地球環境における海の役割を理解することを目指しています。東京湾や北極海など、あちこちの海に出かけて海水を汲み、成分の分析を行なっています。壮大な謎解きに挑んでいるような、面白くてやりがいのある仕事です。

仕事と生活とのバランス

私の仕事の都合で3度も海外引っ越しをしていますから、夫には大変な苦勞をかけてきました。喧嘩も色々ありました。私の研究への思いや責任を理解して応援してくれる夫のお蔭で、何とか家庭円満です。北米では帰宅も早かったし、休暇を取って旅行に行くことも自由にできたので、仕事と私生活とのバランスは取りやすかったです。帰国後は夫婦の帰宅時間がバラバラになり、夕食を一緒にすることが少なくなったので、朝食をメインに変えて二人でゆっくり食事をすることにしています。ちなみに、我が家の家事は50:50の分担です。もともと得意ではなかった夫も、今ではすっかり家事万能です。

進路決定のきっかけ

小学生の時、TVで見たノルウェーの景色に憧れて、北国に住みたいと思ったのがそもそものきっかけです。日本の北国＝北海道の大学への進学を決意し(単純ですね)、成績の都合で水産学部に入學しました。4年生で始めた化学海洋学研究が面白くて、まだ止めたくないもっとやってみたく思っているうちに、大学→大学院→海洋学者と進むことになりました。今でも研究をしていて「おもしろい!」と思うことがあります。この道に進んでよかったなあと思う瞬間です。

進路選択に対するメッセージ

やりたいことがあるなら、それに向かって努力すればよいのですが、やりたいことが決まっていないうちに、最終目標を決めることは難しいでしょう。世の中には想像したこともないような職業もたくさんありますから、自分に最適な進路なんてわかるはずがありません。分岐点が来たときに、自分は何が好きか、何を大事にしたいかを考えて、その方向に近い選択肢を選べばよいのではないのでしょうか。好きなこと、大事なもののためには努力も苦になりませんし、意外な力が出て、先の道がどんどん開けていくような気がします。

海外留学・勤務を通じて得たこと・得したこと

北米では「充実すべきは人生であって、仕事はその一部でしかない」という考え方が行き渡っているように感じました。私生活を大事にするという当たり前のことを実践できる環境です。私も、やるときはやるけど休む時は休むというスタイルに変わりました。オンとオフがはっきりしていることで仕事への集中力が増し、かえって生産力も上がるように思います。後は、ある程度の英語を話せるようになったことと、各国の研究者と知り合いになったのが研究者としてのキャリアにとって大きなプラスになったと思います。

海外の女性研究者の活躍と位置づけについて感じたこと

カナダの船に乗って最初に驚いたのは、女性の多さでした。私の母親世代のおばちゃんたちもいました。皆1カ月も乗船して仕事をするのですから、職場だけでなく、家族の考え方もずいぶん日本より進んでいます。私の勤めていたカナダの国立研究所では、「女性」だけでなく、「白人以外」「障害者」を積極的に採用するように決められていました。活躍できる場所が与えられ、実力を発揮して素晴らしい成果を出している女性研究者がたくさんいます。私の関わっていた研究プロジェクトのリーダーも女性でした。

海外留学・勤務を決めたきっかけについて

アラスカに、アメリカと日本が共同で設立した研究センターがあります。博士号取得後、大学の恩師の推薦でそのセンターにポスドクとして派遣されました。3年後に次の就職先を探していたとき、私の研究成果を気に入ってくれたカナダの研究者が、彼の研究所に誘ってくれました。5年間カナダで研究を続けましたが、初めの3年間はポスドク、その後の2年間は研究者という立場でした。カナダの国立研究所だったので、カナダの税金を使ってカナダ人のために研究しているということに違和感を覚え、日本への帰国を決めました。

滞在先の思い出・生活者としての体験

アラスカはとにかく大自然!夏は思いっきり明るくて生き物達が元気いっぱい。冬は極寒の真っ白な世界に空を舞うオーロラ。毎日の通勤の景色さえも素晴らしくて、「こんなところで暮らせて幸せだなあと」しみじみ思いました。カナダのビクトリアは島の上。職場の目の前も海で、昼休みにボタンエビ漁をしたり、カヌーを漕いだりしました。仕事帰りに遊ぶため、車にカヤックを乗せて通勤してくる同僚もいました。「景色がいいから海辺の自宅で仕事をする」と、めったに研究所に来ないポスドクもいました。やるべきことさえやっていたら後は自由に楽しめる、そんな雰囲気でした。



<川合美千代 (かわいみちよ) プロフィール>

広島県立三原高等学校→北海道大学水産学部→北海道大学大学院地球環境科学研究科
2002-2005年 アラスカ大学国際北極圏研究センター (結婚)
2005-2010年 カナダ漁業海洋省海洋科学研究所
2010年11月より現職

7人の女性研究者たち
(グリーンランド沿岸、観測船上で)